



▲第1号2ページ

広報の歴史

広報紙は、昭和30年に3町村が合併する以前からそれぞれの町村で「お知らせ版」として発行されていたようです。そして、昭和39年6月5日に、それまでの「広報まさき」と「公民館報」が合併し、現在の「広報まさき」がスタートしました。

300号を経る間、「館報まさき」の復刊(昭和47年(昭和61年)や年2〜3回程度の発行が、毎月になる(昭和56年以降)など様々な変遷を重ねてきました。ここで、現在の「広報まさき」を紹介します。



松前町長 白石勝也

広報まさき300号！

「広報まさき」第1号が発行されたのは、昭和39年です。くしくも私が社会人として一步を踏み出した年と同じです。つまり、松前町の広報紙の歩みが、私の社会人生活の歳月と同じであり、今、町長として、記念すべき300号の発行を迎えたことに、ひとしおの感慨を覚えます。

「広報まさき」の1号1号が松前町の歴史そのものであり、折をみて、第1号から読み返し、自分の歩んできた人生と重ね合わせてみたいものだと思います。

言うまでもなく、町の広報紙の一番大きな役割は、町行政の身を住民の皆様を知っていただくことです。知っていたただくためには、読んでいただくなくてはなりません。読んでいただくために編集にたずさわる職員は、表紙、タイトル、色、文字の大きさ、

写真、イラストなどに知恵をしぼり、見やすく、読みやすく、分かりやすい内容にするため努力を続けています。また、広報紙の内容も時代とともに変わってきています。当初は、行政(役場)側から一方的に仕事の出身(税金や福祉、水道など)をお知らせ的に書き連ねることが多かったと思います。このため、文章が固い、役所ことばが分かりにくい、といった声がよく聞かれました。

しかし、号を重ねるごとに内容が改善され、単に一方的なお知らせだけでなく、町内の珍しい話題、ためになるひと口コメント。町民の方々の寄稿文やエッセイ的な文章も掲載するようになってきました。さらに、町行政と住民のパイプ役であると同時に、町民同士の情報や話題の交換の場としての役割も果たすようになってきました。

私どもは、これからも、住民の皆さんの役に立つ広報紙をめざすとともに、読んで楽しい、そして、次の号が楽しみだと言ってもらえるような、そんな広報紙をつくっていきたいと思います。

ぜひ、皆さんの感想やご意見をお聞かせください。